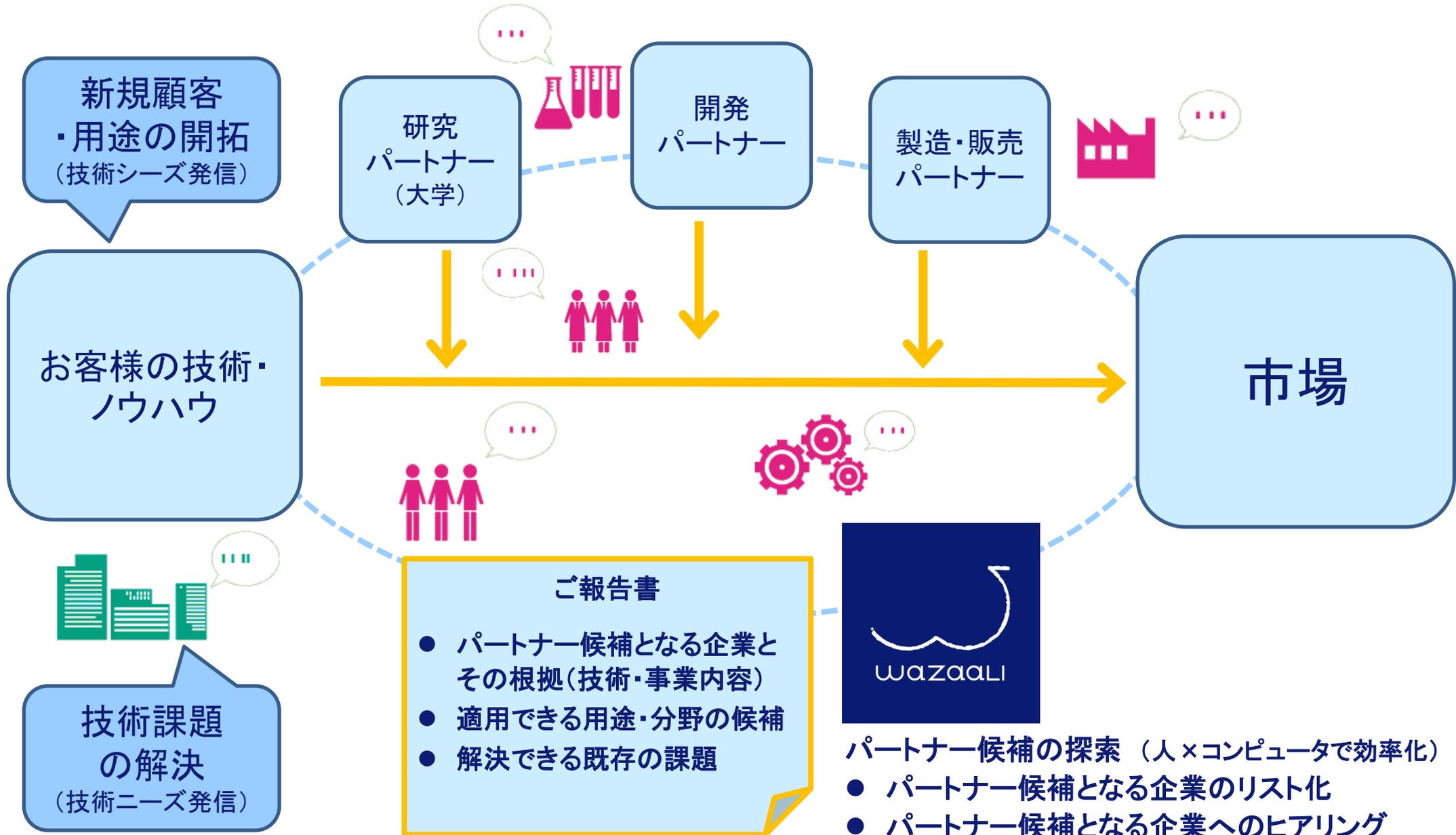


# お客様のイノベーションのための パートナー探索のお手伝い

2022年1月

ワザアリ株式会社

# 弊社サービス： お客様のパートナー候補の探索



# 外部パートナーと連携する際の課題 (2016年)



図表付録-4 外部組織と外部連携をする場合の課題

	連携先(国内)					連携先(海外)				
	大企業	中小企業	ベンチャー企業	大学	公的研究機関	大企業	中小企業	ベンチャー企業	大学	公的研究機関
①	56.3%	68.2%	63.1%	47.1%	49.0%	50.7%	57.2%	55.1%	55.2%	54.9%
②	15.0%	34.4%	26.2%	24.2%	25.9%	9.9%	21.7%	17.6%	17.9%	18.0%
③	1.9%	22.3%	18.1%	7.0%	6.8%	1.4%	11.6%	10.3%	3.0%	3.0%
④	50.6%	42.0%	43.6%	64.3%	63.3%	38.7%	28.3%	34.6%	44.0%	43.6%
⑤	42.5%	24.8%	32.2%	35.0%	32.7%	58.5%	46.4%	49.3%	43.3%	42.9%
⑥	15.0%	25.5%	30.9%	19.1%	15.0%	19.7%	28.3%	30.9%	22.4%	17.3%
⑦	51.3%	31.2%	27.5%	39.5%	40.8%	39.4%	29.7%	25.0%	34.3%	33.8%
⑧	24.4%	8.3%	7.4%	19.1%	17.7%	15.5%	9.4%	6.6%	12.7%	14.3%
⑨	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	22.5%	21.7%	25.0%	21.6%	21.1%
⑩	1.9%	1.3%	4.0%	2.5%	2.0%	2.1%	2.9%	3.7%	4.5%	4.5%

<項目>

- ①必要な技術やアイデア等を有する適切な連携先が見つけれない
- ②相手が必要な技術やアイデア等を有していない
- ③相手の研究開発能力が低く、製品や技術の品質面で不安がある
- ④協業していく上で目指すところやスピードが合わない
- ⑤ビジネスの慣習、文化が違う
- ⑥情報漏洩が心配
- ⑦費用分担や知財の取扱い等において合意が困難
- ⑧相手に本気で連携に取り組む意欲がない
- ⑨言語がわからない
- ⑩その他

そもそも  
「適切な連携先が見つけれない」

●NEDO  
オープンイノベーション白書  
(初版)  
(2016年)より

# オープンイノベーションの活発化状況から見る課題・阻害要因 (2018年)



	10年前と比べオープンイノベーションの取り組みが活発化している企業の特徴	左記から示唆されるオープンイノベーション推進の課題・阻害要因
<b>【組織戦略】</b>		
外部連携をするか否かの判断基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術的な優位性、自社単独実施に比べた研究開発スピードやコスト、事業化後の役割分担や知財権の扱い等あらゆる側面を非常に重視して判断する</li> <li>● オープンイノベーションへの上層部の姿勢や、推進組織からの助言を重視する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 判断基準が明確化されていない、あるいは明確化されているが徹底されていない</li> <li>● 外部連携が全社的な取り組みとなっていない</li> </ul>
対外的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営計画等への明記や、経営トップ等による対外発信を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営トップのコミットメントが不十分</li> </ul>
<b>【組織のオペレーション】</b>		
専門組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オープンイノベーション推進の専門組織や人員配置等の仕組み整備を進めており、かつその仕組みがうまく機能している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門組織が設置されていない、あるいは設置されているが機能していない</li> </ul>
外部連携先の探索	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「展示会等」、「論文・学会情報」などの従来の手段よりも、「ニーズ発表会」、「ビジネスコンテスト」、「ハッカソン・アイデアソン」、「アクセラレーションプログラム」、「CVC」といった取り組みを重視している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従来の手段に頼っており、新たな仕組み（ビジネスコンテスト、ハッカソン・アイデアソン、CVCなど）を活用できていない</li> </ul>
国内の組織と外部連携をする場合の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 10年前と取り組みがほぼ変わらない企業と同じく、<u>適切な連携先が見つからないことは課題となっている</u></li> <li>● 費用分担や知財の取扱い等において合意が困難であること、および大学・公的研究機関が相手の場合に協業していく上で目指すところやスピードが合わないことが課題である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>適切な連携先が見つからない</u></li> <li>● 費用分担や知財の取扱いで合意できない</li> <li>● 協業で目指すところやスピード感が合わない（特に大学・公的研究機関の場合）</li> </ul>
<b>【ソフト面の要素】</b>		
推進する仕組みの問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 10年前と比べオープンイノベーションの取り組みが活発化していない企業と比べて、人員や予算への課題感は相対的に少ない。</li> <li>● 一方で、活性化していない企業と同様、研究開発者や組織の理解、<u>外部連携相手の探索に課題を感じている</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まず、人員や予算が課題となっている</li> <li>● それをクリアしても、<u>研究開発部門の理解や、外部連携先の探索が難しい</u></li> </ul>

オープンイノベーションに積極的な企業も依然として外部連携先の探索に困っている

● [NEDO](#)  
[オープンイノベーション白書\(第二版\)](#)  
(2018年)より

# 当社のパートナー探索の特長



人  
技術情報の「理解」



コンピュータ  
大量の情報の「収集」・「仕分け」



人間が理解する

Photo by Steve Jurvetson/ CC BY

属人的な知識を超える



Photo by Christian Ditaputratama/ CC BY

非労働集約的な

技術の正確な  
理解



未探索の領域へ  
のリーチ



効率的な  
パートナー探索



# 探索業務の流れ



## 1. お客様とのディスカッション

- ご要望の内容(技術ニーズ/シーズ)
- お客様での過去の調査結果と課題
- 想定する適用用途・分野

## 2. 仮説の構築(人×コンピュータによる候補リストアップ)

- パートナーの候補(企業・機関)とその根拠(保有技術)
- 解決できる既存の課題/適用できる用途・分野の候補

## 3. パートナー候補への提示資料の作成

- 技術内容、接触した理由、ヒアリング希望項目(実際のニーズ、想定される課題)等

## 4. 仮説の検証(対応可能性のヒアリング)

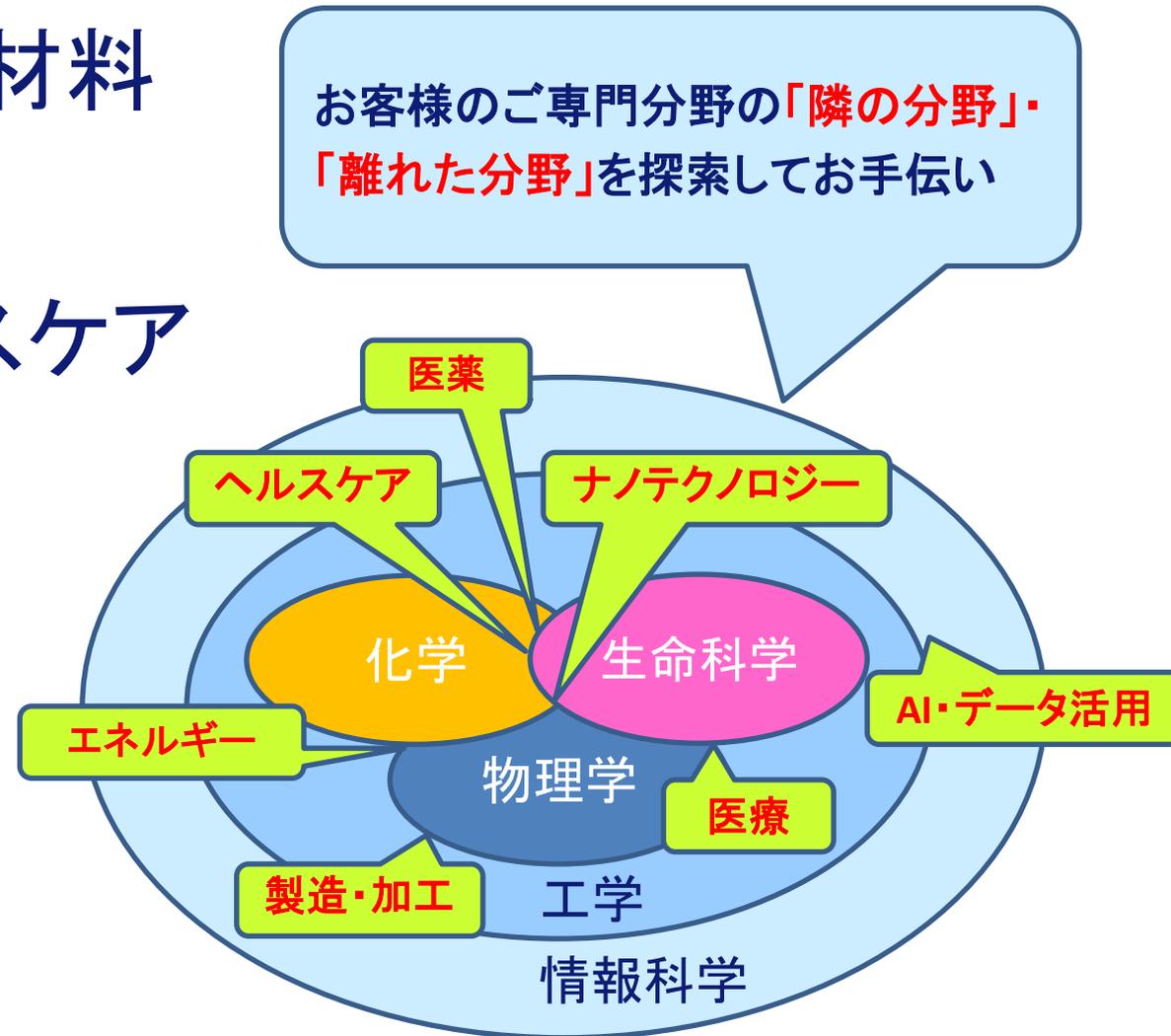
- パートナー候補への接触(訪問・Web会議・メール等)、ヒアリング

## 5. お客様へのご報告・ディスカッション

- パートナー候補へのヒアリング結果

# 探索した実績のある分野

- ナノテクノロジー・材料
- エネルギー
- 医療・医薬・ヘルスケア
- AI・データ活用
- 製造・加工
- その他



We solve your problem.  
We believe in the power of imagination.

